

事例

大阪自彊館あいりん相談室

大阪自彊館（大阪府） 〒557-0004 大阪府大阪市西成区菟之茶屋1丁目9番14号救護施設三徳寮敷地内 TEL 06-6645-0504

活動の概要

失業や高齢、疾病等に伴う生活障害の諸問題を抱え、主に「あいりん地域」で生活困窮状態を余儀なくされている労働者、野宿生活者等に対し、生活全般にわたる相談を受け、その自立を支援します。

関係機関、各種団体等との連絡調整および情報交換。野宿生活者等の実態把握。

法人の概要

明治45年、釜ヶ崎の惨状（最下層の生活環境）を「何とかできぬものか」との発想から当地区の環境改善と労働者への宿所提供を目的に設立されました。釜ヶ崎は全国最大の「寄せ場」として、主に建設労働市場へ日雇い労働者を供給していますが、長びく不況で多くの労働者が仕事を失い、野宿生活を余儀なくされています。日雇い労働はきわめて不安定な雇用形態であることから、好不況の影響を真っ先に受け、かつてから経済の調整弁的役割を担わされており、日雇い労働者は雇用する側の恣意によって常に犠牲にされてきました。こうした状況は社会的に創り出された側面が大きく、社会の責任として問題解決を図っていく必要があります。

- 経営施設数…11
- 法人全体の年間事業収入…5,337,140千円
- 主な経営施設
 - 救護施設 7 施設
 - 昭和42年～平成8年設立 定員1,000名
 - 更生施設 昭和27年設立 定員240名
 - 身体障害者療護施設 2 施設
 - 昭和48年、平成7年設立 定員100名
 - 特別養護老人ホーム
 - 平成7年設立 定員104名

実施施設の概要

- 施設名…三徳寮
- 施設種別…救護施設 定員150名

施設の運営方針

「あいりん」とともに生き、地域が抱える課題と積極的に取り組みます。「他律から自律、依存から自立へ」を利用者サービスの基本とします。利用者一人ひとりの人格を尊重し、各人に即した過不足のない適切なサービスを提供します。

活動の内容

- 活動対象者…主に釜ヶ崎の労働者、野宿生活者
- 活動の頻度…週5日 9:00～17:00
- 年間延利用者数…約2,400名
- 活動開始年…平成12年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当法人は、明治45年釜ヶ崎の惨状の改善を目的として創立されました。創立から約90年が経過し、その間に法人全体の様相は大きく変

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

化してきましたが、創立当初の理念は常に法人の方針の根底にあります。いわゆる「あいりん対策」の一翼を担う形で当地区の改善のために、必要とされる役割「夜間巡回、単泊宿泊の受入れ、生活ケアセンターの運営、自立支援センターの運営等」を果たしてきました。しかしより一層の生の声をくみ上げて、即応できる取り組みの必要性も痛感されました。当地域は街としてのハード面での改善は確かに進んできたと言えますが、労働者の置かれている過酷な状況は深刻化しています。そうしたなか相談室は釜ヶ崎の中に自ら一步を踏み入れたと言えます。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

現在、社会福祉士2名で業務を遂行していますが、有資格者であるよりは、釜ヶ崎の実情をどれだけ正しく把握しているかのほうが重要と思えます。釜ヶ崎には生活困窮している労働者等を陰に陽に支えている機関、団体、人、物等（活用しうる資源）が比較的多く存在していると言えます。相談室もそうした資源のひとつとして機能しています。従って、利用者のニーズ充足のために活用しうる資源との連携に努めてきました。各機関、団体ごとにそのスタンス、立場に違いがあるので、それぞれの持ち味、特徴を理解し、情報の共有化を図るためにも、日常的に他資源とのコミュニケーション、意思の疎通を図る努力をしてきました。

■利用者の声、地域の反応

生活困窮状態にある相談者をいかに適切な窓口（資源、施策、制度等）へつなぐかが相談室の主たる仕事です。こうしたことを地道に行ってきた結果、それなりに釜ヶ崎を取りまく多くの資源との連携が形づくられてきました。そのことによって、相談者の問題解決がスムーズに

行えるようになり（当然難ケースでどうにもならない場合もあるが）、口コミで相談室の機能が広がり、対応した相談者に紹介されて来室する人、他資源から紹介されてくる人が増え、地域の相談窓口として認知されるようになってきました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

事業開始してからの3年間で確実に把握しているだけでも、約400名の人を路上から畳の上の生活へ戻しました。地域の資源（含む民間）を活用し続けたことで街づくりのためのネットワーク化が進みつつあります。

課題としては、難ケースの問題解決のためにさらに資源の開拓が必要です。対応後に次々と問題発生する人もあり、相談室としてフォローが現体制でどの辺まで可能なのかの見極めも必要だと思えます。当然、地域資源とのさらなる連携の強化、ネットワークの形成も重要です。



あいりん相談室